

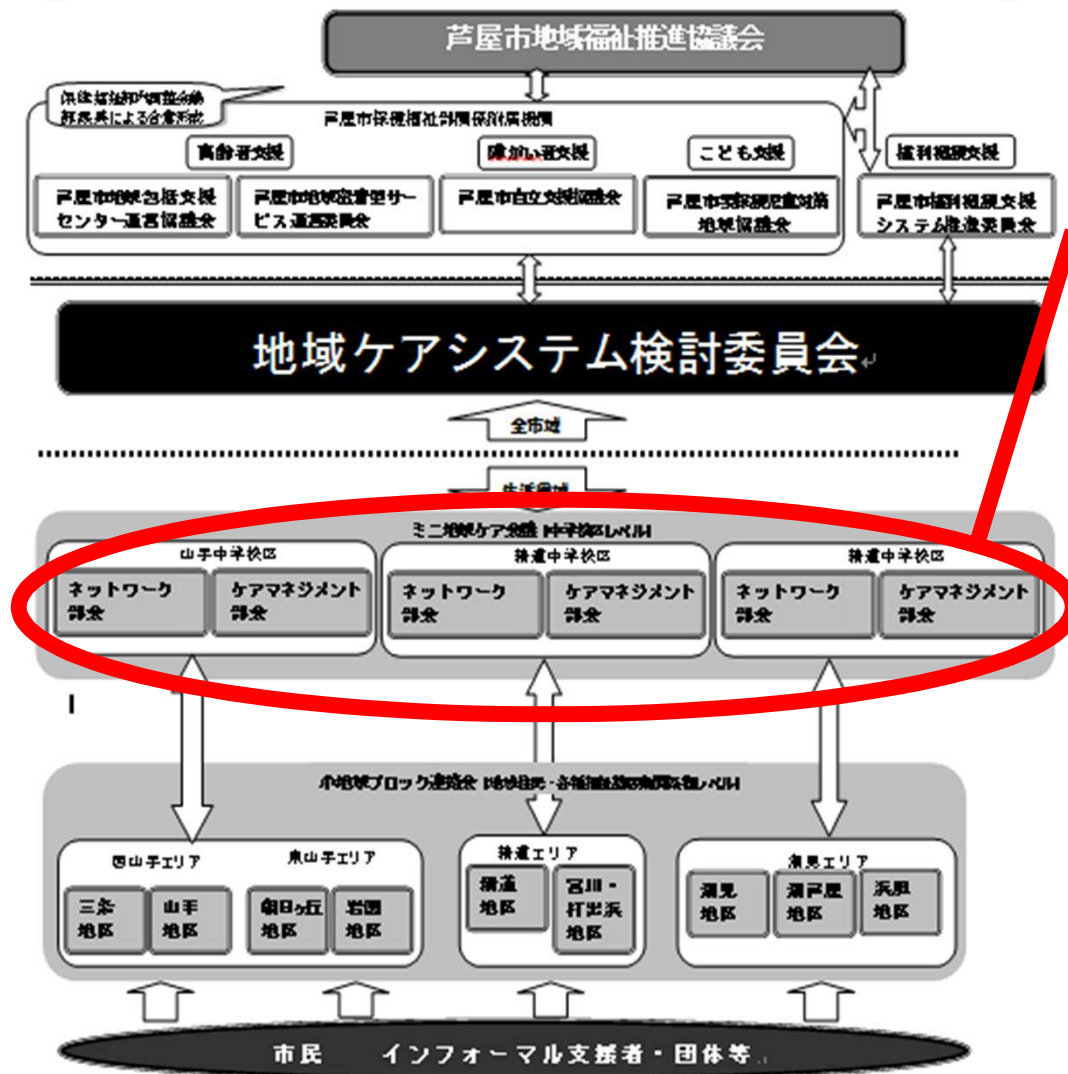
地域発信型ネットワーク中学校区での取り組み

山手中学校区福祉ネットワーク会議

平成27年3月5日

地域発信型ネットワークにおける中学校区エリアの会議体

～平成25年度



中学校区ごとのミニ地域ケア会議
ネットワーク部会
…住民の会議
ケアマネジメント部会
…専門職の会議

山手中学校区での取り組み

ケアマネジメント部会で出された課題

- ①支援の必要性を感じたら領域を越えたシステム作り
→領域を越えたネットワークを作ろうと思っても必要性の認識のズレや中心となる人がいないため、個々のかわりで終わってしまう
- ②地域住民との意識共有
→地域住民に相談窓口や福祉サービスの情報が周知されていない
- ③他分野や機関の相互理解
→専門機関の間で、それぞれの業務の中身が十分に理解されていない

山手中学校区での取り組み

課題解決のためにワーキングチームで検討する

○支援の必要性を感じたら領域を越えたシステム作り

お互いの役割や連携のイメージを共有する取り組みとして
成功事例の事例紹介を行い、各機関の役割を確認した

○他分野や機関の相互理解

以前に作成した機関紹介シートについて、必要性等のアンケートを実施し、ホームページ上に掲載するなど、配布の方法や構成などに工夫を加えた専門職対象の改訂版を作成した。

残された課題



地域住民との意識共有

精道地区

住民と専門職
が協働して活
動が出来ない
か

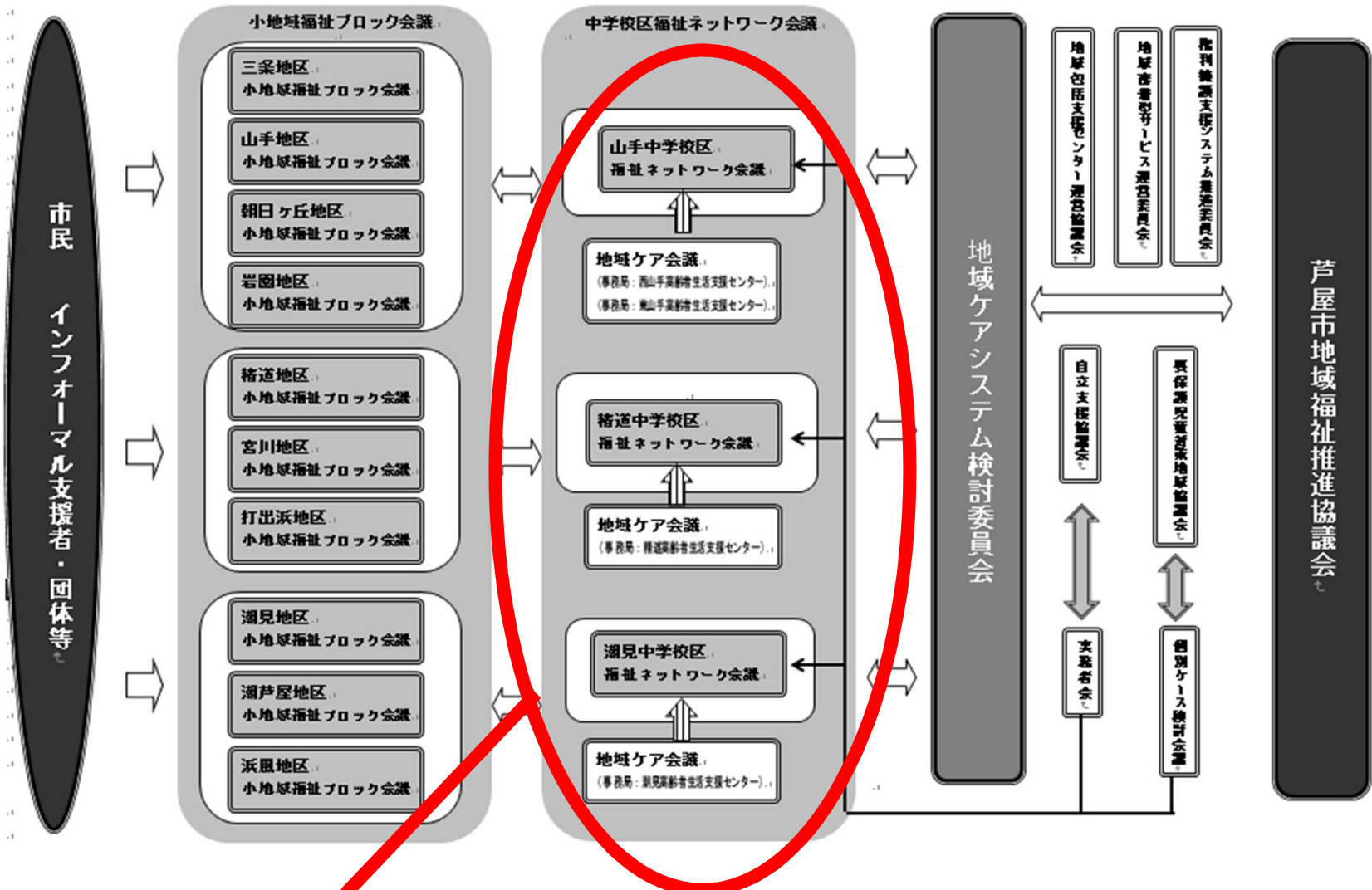
潮見地区

住民と専門職
が協働した見ま
もりの仕組みを
作りたい

改編プロジェクト


住民と専門職
が協働で話し
合う場が必要

平成26年度～



従来のネットワーク部会、ケアマネジメント部会を統合し、住民と専門職が協働で話し合う場として“**中学校区福祉ネットワーク会議**”に名称変更した。

中学校区福祉ネットワーク会議の目的



ニーズ
整理

◎中学校区内における課題の共有

- ・各小地域福祉ブロック会議から出された課題、各専門職ネットワーク会議から出された課題を出しあい、中学校区全体の課題として共有する

◎解決対応方法の検討

- ・課題に対して、小学校区を越える住民間での取り組み、分野を越えた専門職間での取り組み、住民と専門職の協働により解決できる方法を検討する。

◎役割分担

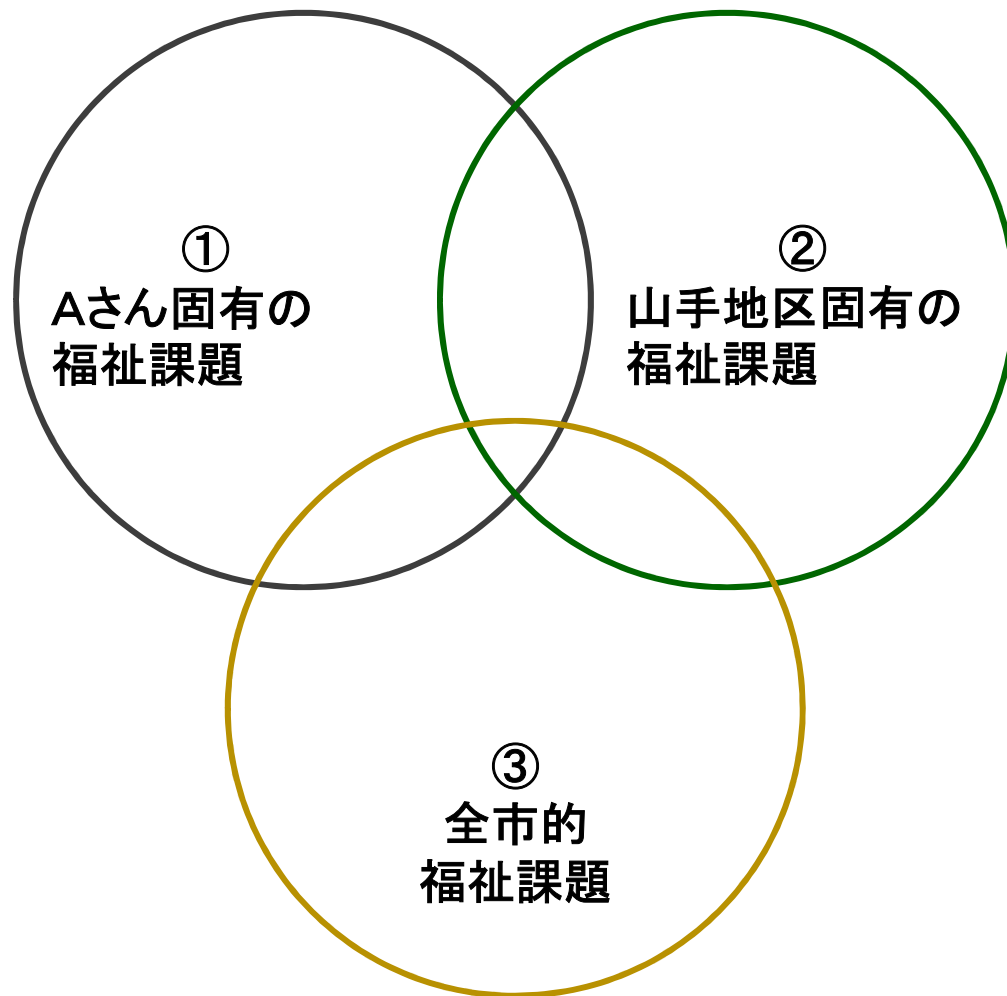
- ・検討した解決方法について、実施する機関、専門職、住民を含めた団体により役割分担を行う。
- ・解決方法が見いだせない課題について、地域ケアシステム検討委員会につなぐ

◎フィードバック

- ・協議した内容について、小地域福祉ブロック会議、各専門職ネットワーク会議にフィードバックする

福祉課題の 카테고리 イメージ

～個別課題と地域課題の関係～



① Aさん固有の福祉課題

Aさんと直接かかわる人たち
で検討し解決

- (例)
- ・ サービス担当者会議
 - ・ 地域ケア会議（個別ケアミーティング）

② 山手地区固有の福祉課題

地域の福祉活動者や専門機関で
検討し解決

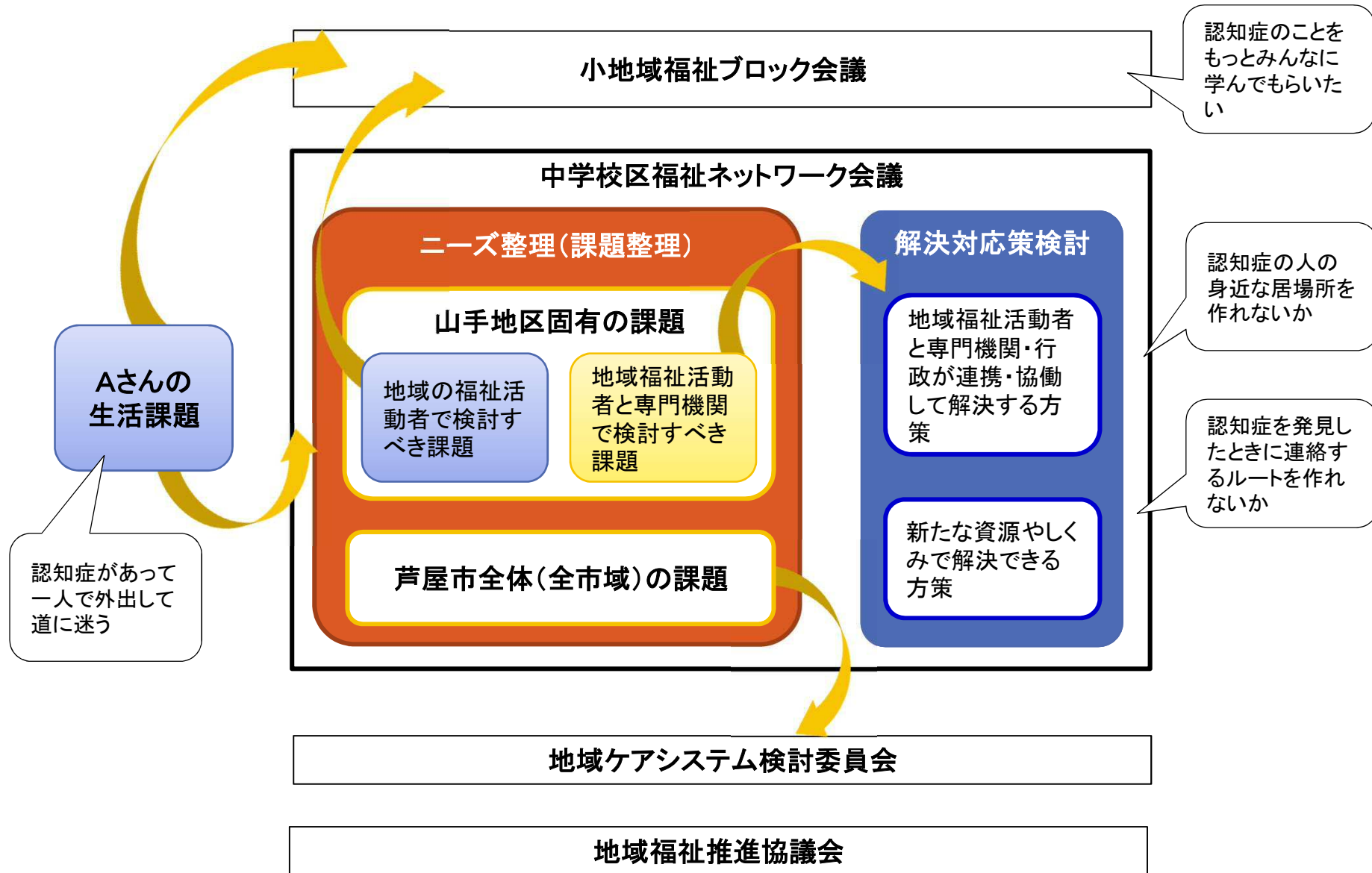
- (例)
- ・ 小地域福祉ブロック会議
 - ・ 中学校区福祉ネットワーク会議

③ 全市的福祉課題

行政、専門機関、住民代表者
が検討し解決

- (例)
- ・ 地域ケアシステム検討委員会
 - ・ 地域福祉推進協議会

会議を中心とした課題解決プロセスのイメージ



地域福祉活動者・専門機関・行政の連携・協働でできること (高齢者領域の例)

課題

認知症の人が地域でいきいきと暮らせるようにする

インフォーマル

フォーマル

認知症に関する学びや啓発

早期発見のための日常的な見まもり

支援の担い手同士の連携

“小さな変化”を発見できる機会と場づくり

地域での孤立化防止(居場所づくり)

生活支援サービスの提供

早期の確定診断と必要な医療の継続

たとえば、こんな課題が解決できないかなあ

住民のサロン活動
につかえる場所がない
かなあ

認知症高齢者の支
援がもっと考えられ
ないかなあ

サロン活動の呼び
かけをもっとしたい
けど、チラシを置い
てくれるところはない
かなあ

住民と、専門職が協
働で勉強会ができな
いかなあ